

九州工業大学

全学副プログラム 登録・履修の手引き

その技術、どう役立てる？

人と社会のより良い未来のために視野を広げよう

マイクロクレデンシャル対応

工学・情報工学の専門に、国際協働・事業創造・社会実装・社会データ活用の視点を。

教養教育院 全学副プログラム・コーディネート担当

目次

目次	2
1. 全学副プログラムとは	3
・4つの全学副プログラム	3
・プログラムに登録し、科目を履修すると何ができるようになるか	3
・運営体制	4
2. バッジについて	5
・マイクロ credenシャルとオープンバッジ	5
・オープンバッジの信頼性	5
・全学副プログラムを修了すると授与されるバッジ	5
・バッジ授与の時期	5
3. 各プログラムの紹介	6
・3-1 グローバル人材プログラム	7
・3-2 マネジメント・アントレプレナーシップ人材プログラム	9
・3-3 社会実装・地域創生人材プログラム	11
・3-4 データサイエンスと社会プログラム	13
4. 全学副プログラムの登録に向けて	15
・全学副プログラムの登録・科目履修について	15
・登録における確認事項	16
・学びの計画書（履修計画書）	16
5. 修了要件と卒業要件の関係	18
6. 全学副プログラムの科目概要	19
7. Q&A（よくある質問）	24
8. お問い合わせ先	27
・オフィスアワー	27
9. QRコード・リンク	27

1. 全学副プログラムとは

全学副プログラムは、工学・情報工学の専門の学びに、国際協働・事業創造・社会実装・社会データ活用といった「専門を社会につなげる視点」を加えるための学修プログラムです。技術をつくるだけでなく、それを伝え、試し、価値につなげる力を育てることを目的としています。

「技術をつくれるだけでは、社会は変わらない。誰に必要とされるのか。どう伝えるのか。どう実現するのか。」——4つの全学副プログラムは、こうした問いに向き合いながら、自分の専門を社会につなぐ経験を提供します。

※全学副プログラムは、工学部副専門プログラム、情報工学部副専門プログラムとは異なりますのでご注意ください。

4つの全学副プログラム

目指したい方向に合わせて、次の4プログラムから選び、プログラム登録を行います。

各プログラムの修了に必要な単位数は、10単位です。

プログラム名	目指すこと	修了単位
グローバル人材	世界で協働する。語学・コミュニケーション力を土台に、多様な視点で世界や社会を考える。	10単位
マネジメント・アントレプレナーシップ人材	事業に変える。経営学を基礎に、新しい価値や事業を生み出す。	10単位
社会実装・地域創生人材	地域で試す。専門の知識・技術を地域社会の課題解決に活かす。	10単位
データサイエンスと社会	データで意思決定を支える。データの集め方・分析・伝え方を学び、社会課題に活かす。	10単位

プログラムに登録し、科目を履修すると何ができるようになるか

- 自分の専門を、国際協働・事業創造・社会実装・社会データ活用という異なる視点から捉え直し、社会につなげる力が身につきます。
- 修了すると、その学びの証としてオープンバッジ（シルバー）が授与されます（詳細は「2. バッジについて」を参照）。

運営体制

全学副プログラムは、教養教育院の全学副プログラム・コーディネート担当が運営します。

また、各プログラムには担当教員を配置しています。

2. バッジについて

マイクロクレデンシャルとオープンバッジ

九州工業大学では、令和 7 年度からマイクロクレデンシャル（Micro-credentials）を取り入れています。マイクロクレデンシャルとは、「学位」とは別に大学が提供する学修プログラムを通じて、「何を知っているか」「何を理解しているか」「何ができるようになったか」といった特定の学修成果を証明するものです。

本学では、各種学修プログラムの修了証明としてオープンバッジを導入しています。オープンバッジはデジタル証明書で、将来の進学やキャリア形成などさまざまな場面での活用が期待されます。

オープンバッジの信頼性

本学では、一般財団法人オープンバッジ・ネットワークのプラットフォームを用いて、オープンバッジ 3.0 規格のバッジを発行しています。これは国際標準規格に準拠したもので、暗号技術を取り入れており、実質的に偽造・改ざんが不可能となっています。

全学副プログラムを修了すると授与されるバッジ

全学副プログラムの 10 単位は、単なる履修記録ではありません。修了者にはオープンバッジ（シルバー）が授与され、自分の専門を国際協働・事業創造・社会実装・社会データ活用の視点から広げた証になります。

バッジ授与の時期

バッジの授与は、4 年次を予定しています。具体的な時期は、今後の案内や LiveCampusU で確認してください。

3. 各プログラムの紹介

ここでは、4 つのプログラムについて、概要・開講科目・修了要件・履修モデル・履修スケジュールを紹介します。

3-1 グローバル人材プログラム

世界で協働する

グローバル人材プログラムでは、語学力やコミュニケーション力を土台に、世界や社会を多様な視点で考える力を身につけます。工学・情報工学の学びを、国や文化の違いを超えて活かし、他者と協働しながら行動できる人材を目指します。

プログラム定員：なし

開講科目と修了要件

科目区分	科目名	単位	開講時期		修了要件
			戸 畑	飯 塚	
言語系基礎科目	言語と社会（中国語）Ⅱ	1	2 年後期	2 年後期	1 単位
	言語と社会（韓国語）Ⅱ	1			
	言語と社会（フランス語）Ⅱ	1			
	英語W 3	1	2・3 年前後期		
	英語S 3	1		3 年前期	
グローバル 人材基礎科目	人文学と言語の地平	1	2 年 3 Q		6 単位
	グローバル・ディアスポラ	2	3 年前期		
	国際協力論	2	3 年後期		
	科学技術のグローバルヒストリー	2	2 年前期		
	グローバル・イシュー入門	2	2 年前期		
	フィールドワーク入門	2	2 年前期		
言語系発展科目	言語と社会（中国語）Ⅲ	1	3 年前期	3 年前期	2 単位
	言語と社会（中国語）Ⅳ	1	3 年後期	3 年後期	
	言語と社会（韓国語）Ⅲ	1	3 年前期	3 年前期	
	言語と社会（韓国語）Ⅳ	1	3 年後期	3 年後期	
	言語と社会（フランス語）Ⅲ	1	3 年前期	3 年前期	
	言語と社会（フランス語）Ⅳ	1	3 年後期	3 年後期	
	言語と社会（英語）Ⅰ	1	3 年前期	3 年前期	
	言語と社会（英語）Ⅱ	1	3 年後期	3 年後期	
実践系発展科目	国際協働演習	1	適宜		1 単位
	海外研修Ⅰ	1			
	海外研修Ⅱ	2			

※「言語と社会」は、原則としてローマ数字の順番に履修すること。

科目ごとに履修定員を設けている。履修希望者が定員数を超過した場合は、全学副プログラム登録者を優先し、さらに上位学年の学生を優先のうえで抽選を行う。科目ごとの履修定員は別途通知を確認すること。

履修モデル（こんな人におすすめ）

MODEL 1

英語で他者と協働する経験を積みたい

自分の専門をグローバル企業で活かしながら、英語で協働する力を育てるモデルです。

● 1年後期

履修予定
アンケートに回答

自分の専門をグローバル企業で生かすために、英語で他者と協働する経験を積みたい

● 2年前期

科学技術の
グローバルストーリー

海外研修Iまたは
海外研修II

● 3年前期

英語S3

言語と社会（英語）Ⅰ

グローバル・
ディアスポラ

● 3年後期

言語と社会（英語）Ⅱ

国際協力論

● 4年次

バッジ授与
履修成果をオープン
バッジ（シルバー）と
して証明。

※「海外研修I・II」は、各自の履修計画に応じて、履修時期を設定することができます。

MODEL 2

第2外国語（中国語・韓国語・フランス語）を通して多様な視点を養い、工学と情報工学の学びを世界で生かす人材へ

第2外国語の学修を基盤に、グローバルな視点と実践的なコミュニケーション力を養成するモデルです。

● 2年前期

言語と社会
（中・韓・仏）Ⅰ

グローバル・
イシュー入門

● 2年後期

言語と社会
（中・韓・仏）Ⅱ

海外研修I

● 3年前期

言語と社会
（中・韓・仏）Ⅲ

グローバル・
ディアスポラ

● 3年後期

言語と社会
（中・韓・仏）Ⅳ

国際協力論

● 4年次

バッジ授与
履修成果をオープン
バッジ（シルバー）と
して証明。

※ 言語と社会（中・韓・仏）は、キャンパス・言語によって開講日時が異なる場合がありますので、ご注意ください。

3-2 マネジメント・アントレプレナーシップ人材プログラム

事業に変える

マネジメント・アントレプレナーシップ人材プログラムでは、経営学を基盤として、社会課題の解決や新たな価値の創出に必要な知識を身につけます。事業創造、組織運営、マーケティング、会計、国際ビジネスなどを幅広く学びながら、技術を社会に活かすためのマネジメントや、データと数理的手法を活用して経営課題を分析する基礎的な考え方を学びます。

プログラム定員：あり（各学部で 40 名程度、合計 80 名）

定員を超える場合、登録者の選抜を行うことがあります。

開講科目と修了要件

科目区分	科目名	単位	開講時期		修了要件
			戸 畑	飯 塚	
基礎科目	○事業創造・スタートアップ論	2	2 年前期（予定）		4 単位
	○組織マネジメント論	2	2 年後期		
発展科目	技術マネジメント論	2	3 年前期（予定）		6 単位
	オペレーションズ・リサーチ	2	2 年前期	2 年前期	
	経営管理論	2	3 年前期		
	マーケティング	2	前期集中	前期集中	
	会計学	2	前期集中	前期集中	
	国際ビジネス論	1	3 年後期		

※ ○印の付された科目は、必ず修得しなければならない科目である。

※ 教養教育選択必修科目の「経営学」「自己探究・アントレプレナーシップ入門」「アイデア創出・思考法入門」から 1 単位までを発展科目の修了要件単位として認める。

※ 「マーケティング」ならびに「会計学」は隔年で開講する。

※ 科目ごとに履修定員を設けている。履修希望者が定員数を超過した場合は、全学副プログラム登録者を優先し、さらに上位学年の学生を優先のうえで抽選を行う。科目ごとの履修定員は別途通知を確認すること。

履修モデル（こんな人におすすめ）

MODEL 1

自分のアイデアや技術をもとに、将来的に新しいビジネスに挑戦したい

自らのアイデアや技術を基に新たな事業を創出し、その成長・発展までを見据え、事業機会の発見、市場分析、組織体制の構築、会計など、事業を持続的に運営するために必要な基礎的知識を体系的に学びます。これらを通じて、新たな価値を創造し、事業を企画・運営・発展させるための基礎的なマネジメント能力の修得を目指します。

● 1年前期

2Q火5

自己探究・アントレ
プレナーシップ入門

● 1年後期

履修予定
アンケートに回答

自分のアイデアや技術
をもとに、新しい事業
づくりに挑戦したい

● 2年前期

集中

事業創造・スタート
アップ論

集中

マーケティング
（※隔年開講）

● 2年後期

月2

組織マネジメント論

● 3年前期

集中

会計学
（※隔年開講）

● 3年後期

木5

経営管理論

● 4年次

バッジ授与

価値創造の学びを
オープンバッジと
して証明。

（※一部に隔年開講の科目があるため、履修には注意してください）

MODEL 2

技術を、社会で広く活用される事業やサービスに育てたい

技術を事業へと発展させるためのマネジメントを軸として、事業創造、組織マネジメント、技術マネジメント、経営管理およびデータに基づく意思決定に関する基礎的知識を体系的に学びます。これらを通じて、企業内の技術やアイデアを活用した新たな価値の創出から事業の運営・成長までを支えるマネジメントの基礎的な知識と考え方を身に付けます。

● 1年後期

履修予定
アンケートに回答

工学・情報工学の技
術を、社会で使われ
る事業やサービスに
育てたい

● 2年前期

集中

事業創造・
スタートアップ論

● 2年後期

月2

組織マネジメント論

● 3年前期

集中（未定）

技術マネジメント論

集中

オペレーションズ・
リサーチ

● 3年後期

木5

経営管理論

● 4年次

バッジ授与

価値創造の学びを
オープンバッジと
して証明。

3-3 社会実装・地域創生人材プログラム

地域で試す

社会実装・地域創生人材プログラムでは、世界と地域のつながりを理解しながら、工学・情報工学の知識や技術を地域社会の課題解決に活かす力を身につけます。調査を通じて地域の課題を見つけ、専門分野の学びを活かして解決策を考え、多様な人と協働しながら社会に働きかける人材を目指します。

プログラム定員：両学部で 20 名

定員を超える場合、登録者の選抜を行うことがあります。

開講科目と修了要件

科目区分	科目名	単位	開講時期		修了要件
			戸 畑	飯 塚	
基礎科目	グローバル・イシュー入門	2	2 年前期		4 単位
	フィールドワーク入門	2	2 年後期		
	科学技術のグローバルヒストリー	2	2 年前期		
	地域学	2	2 年後期		
	情報社会と教育	2	2 年前期		
発展科目 1	質的調査法	2	3 年前期		2 単位
	量的調査法	2	3 年前期		
発展科目 2	○地域創生プロジェクトⅠ	2	3 年後期		4 単位
	○地域創生プロジェクトⅡ	2	4 年前期		

※ ○印の付された科目は、必ず修得しなければならない。

※ 発展科目 2 の「地域創生プロジェクトⅠ」及び「地域創生プロジェクトⅡ」は、当該プログラム登録者のみが受講できる。

※ 科目ごとに履修定員を設けている。履修希望者が定員数を超過した場合は、全学副プログラム登録者を優先し、さらに上位学年の学生を優先のうえで抽選を行う。科目ごとの履修定員は別途通知を確認すること。

履修モデル（こんな人におすすめ）

MODEL 1

地域社会で課題を発見し、自分の専門を使って解決したい

● 1年後期

履修予定
アンケートに
回答地域社会で課題を
発見し、自分の専
門を用いて課題を
解決する経験を積
みたい

● 2年前期

● 2年後期

集中

地域学

月2

フィールド
ワーク入門

● 3年前期

未定

質的調査法

● 3年後期

集中

地域創生
プロジェクトⅠ

● 4年前期

集中

地域創生
プロジェクトⅡ

● 4年次

バッジ授与
現場で培った力を
オープンバッジと
して証明。

MODEL 2

グローバルの課題を理解し、マクロな視点から地域で解決を試したい

● 1年後期

履修予定
アンケートに
回答グローバルの課題
を理解して課題を
認識し、自分の専
門がその課題にど
う寄与できるのか
試したい

● 2年前期

月2

グローバル・
イシュー入門

● 2年後期

月2

フィールド
ワーク入門

● 3年前期

未定

量的調査法

● 3年後期

集中

地域創生
プロジェクトⅠ

● 4年前期

集中

地域創生
プロジェクトⅡ

● 4年次

バッジ授与
現場で培った力を
オープンバッジと
して証明。

3-4 データサイエンスと社会プログラム

データで意思決定を支える

データサイエンスと社会プログラムでは、情報化が進む社会の中で、データをもとに社会課題を考え、解決に活かす力を身につけます。データの集め方・分析のしかた・伝え方を学びながら、工学・情報工学の知識と人文・社会系の視点を組み合わせ、社会に役立つ DX 人材を目指します。

プログラム定員：両学部で 40 名

定員を超える場合、登録者の選抜を行うことがあります。

開講科目と修了要件

科目区分	科目名	単位	開講時期		修了要件
			戸 畑	飯 塚	
基礎科目	○DX と社会	2	2 年前期		1 0 単位
	○社会データ分析	2	2 年後期		
	情報社会と教育	2	2 年前期		
	フィールドワーク入門	2	2 年後期		
発展科目	質的調査法	2	3 年前期		
	量的調査法	2	3 年前期		
	○社会データ解析演習Ⅰ	2	3 年前期		
	○社会データ解析演習Ⅱ	2	3 年後期		

※ ○印の付された科目は、必ず修得しなければならない。

※ 科目ごとに履修定員を設けている。履修希望者が定員数を超過した場合は、全学副プログラム登録者を優先し、さらに上位学年の学生を優先のうえで抽選を行う。科目ごとの履修定員は別途通知を確認すること。

履修モデル（こんな人におすすめ）

MODEL 1

社会を量的な側面からとらえ、社会課題の発見・解決する手法を学ぶ

社会の中に散在する様々なデータを見だし、社会調査の手法（量的調査）を習得したうえで社会課題を読み解くことを学ぶモデルです。

● 1年後期

履修予定アンケート
に回答

● 2年前期

月2

[必]DXと社会

● 2年後期

月2

[必]社会データ分析

● 3年前期

未定

[必]社会データ解析
演習I

未定

量的調査法

月2

情報社会と教育

● 3年後期

木5

[必]社会データ解析
演習II

● 4年次

バッジ授与

履修成果をオープン
バッジ（シルバー）
として証明。

MODEL 2

社会を質的な側面からとらえ、社会課題の発見・解決する手法を学ぶ

数値として表れにくい社会文化・人の営みなどにも目を向けるために、インタビューや参与観察、フィールドワークなど社会調査の手法（質的調査）を習得したうえで社会課題を読み解くことを学ぶモデルです。

● 1年後期

履修予定アンケート
に回答

● 2年前期

月2

[必]DXと社会

● 2年後期

月2

[必]社会データ分析

● 3年前期

未定

[必]社会データ解析
演習I

未定

量的調査法

月2

フィールド
ワーク入門

● 3年後期

木5

[必]社会データ解析
演習II

● 4年次

バッジ授与

履修成果をオープン
バッジ（シルバー）
として証明。

4. 全学副プログラムの登録に向けて

全学副プログラム科目の履修を始めるには、プログラムに登録する必要があります。

科目の履修までの流れは以下のとおりです。



1年次に全学副プログラムに登録していなくても、2年次に全学副プログラムの科目を履修した等の理由で、2年次に全学副プログラムに登録することも可能です。

この場合、プログラム定員の空き状況によっては、登録できないプログラムもありますので、事前に全学副プログラム・コーディネート担当へご相談ください。

全学副プログラムの登録・科目履修について

1. 説明会（10 月下旬頃に開催予定）に参加して、4 つのプログラムの概要を知る。
2. 登録したいプログラムの方向性を考えて、意向希望のアンケートに回答する。
3. ガイダンス（12, 1 月頃に開催予定）に参加して、履修モデルや時間割を参考に自身の今後の道筋を考えて、学びの計画書（履修計画書）を作成する。
4. 学びの計画書（履修計画書）を提出する。
※学びの計画書（履修計画書）を提出することでプログラムへの登録完了。
5. 進級後、通常の科目と同じように履修登録期間内に履修登録を行い、科目を履修していく。

登録における確認事項

- ☐ 希望するプログラムで開講される科目及び科目概要を確認した
- ☐ 各プログラムの修了要件に沿って、学びの計画書（履修計画書）を作成して提出した

学びの計画書（履修計画書）

プログラムごとに学びの計画書（履修計画書）の様式を全学副プログラム Moodle コースに掲載しています。

ご自身が登録したいプログラムの様式をダウンロードして、学びの計画書（履修計画書）を全学副プログラム Moodle コースへ提出してください。

学びの計画書（履修計画書）様式のサンプル

サンプル

副プログラム学びの計画書

学生番号 _____

名前 _____

1 あなたが登録を希望する副プログラムを選択してください

☒ グローバル人材
☐ 社会実装・地域創生人材

☐ マネジメント・アントレプレナーシップ人材
☐ データサイエンスと社会

2 この副プログラムに登録したいと思ったきっかけは何ですか。授業や日常生活での経験、興味をもった出来事など、具体的に教えてください。

3 この副プログラムで、もっと知りたいことや考えてみたいことは何ですか。

4 この副プログラムでの学びを通して、プログラム修了後どのようなことができるようになりたいですか。

5 あなたが登録を希望する副プログラムで今後履修を考えている科目を選択してください

区分	修了要件	2 年前期		2 年後期		3 年前期		3 年後期		4 年前期	
言語系 基礎科目	1 単位	☐ 言語と社会	1 単位	☐ 言語と社会	1 単位	言語と社会の履修を希望する学生はプルダウンから希望する言語を選択してください。 2 年前期の言語と社会 I はグローバル人材の言語系基礎科目の修了要件ですが、II 以上の計画を確認するため記入してください。					
		☐ 英語 S 3	1 単位	☐ 英語 W 3	1 単位						
言語系 発展科目	2 単位					☐ 言語と社会	1 単位	☐ 言語と社会	1 単位		
グローバル 人材 基礎科目	6 単位	☐ 科学技術のグローバルヒストリー	2 単位	☐ 人文学と言語の地平	1 単位	☐ グローバル・ディアスポラ	2 単位	☐ 国際協力論	2 単位		
		☐ グローバル・イシュー入門	2 単位	☐ フィールドワーク入門	2 単位						
実践系 発展科目	1 単位	☐ 国際協働演習		履修 想定年次	1 単位	※国際協働演習・海外研修 I・II の履修想定年次をプルダウンから選択してください。 また、海外研修 I・II の履修には派遣先プログラムの事情もあるので、想定どおりの年次で履修可能なか別途確認ください。					
		☐ 海外研修 I			1 単位						
		☐ 海外研修 II			2 単位						

5. 修了要件と卒業要件の関係

全学副プログラムの「修了要件」と、学部の「卒業要件」は別のもので、混同しやすいため、次の点に注意してください。

- 全学副プログラム科目で修得した単位のうち、卒業要件単位に含めることができる単位数は、各コースによって異なります。詳しくは、学生便覧を確認してください。
- 「副プログラムの修了要件」と「各学部の卒業要件」においては、同一科目でも単位区分が異なる場合があります。卒業要件上の単位区分は、学生便覧から確認してください。

6. 全学副プログラムの科目概要

全学副プログラムに登録して受講できる科目の概要を一覧にまとめていますので、ご自身のプログラム選択の参考にしてください。

科目名	概 要
言語と社会（中国語）Ⅱ	この科目では、「言語と社会（中国語）Ⅰ」で学んだ基礎を 発展させ、語彙や文法をさらに学びます。実践的な場面を 通じて中国語の運用力を高めるとともに、中国の社会や文 化への理解を深め、コミュニケーション能力の向上を目指 します。
言語と社会（韓国語）Ⅱ	この科目では、「言語と社会（韓国語）Ⅰ」で学んだ基礎を 発展させ、語彙や文法をさらに学びます。実践的な場面を 通じて韓国語の運用力を高めるとともに、韓国の社会や文 化への理解を深め、コミュニケーション能力の向上を目指 します。
言語と社会（フランス語）Ⅱ	この科目では、「言語と社会（フランス語）Ⅰ」で学んだ基 礎を発展させ、語彙や文法をさらに学びます。実践的な場 面を通じてフランス語の運用力を高めるとともに、フラン スの社会や文化への理解を深め、コミュニケーション能力 の向上を目指します。
英語 W3	この科目では、英語 4 技能（聞く、話す、読む、書く）の うち「書く」力の向上を目指します。初年次に培った英語 力とアカデミック・イングリッシュを基盤に、ペアワーク やグループワークを通じて、学術的な場面で必要となる英 語ライティング能力を養います。
英語 S3	この科目では、英語 4 技能（聞く、話す、読む、書く）の うち「話す」力の向上を目指します。初年次に培った英語 力とアカデミック・イングリッシュを基盤に、ペアワーク やグループワークを通じて、学術的な場面で必要となる英 語コミュニケーション能力を養います。
人文学と言語の地平	この科目では、人文社会系の学問における多様な考え方を 学びます。4 名の教員によるオムニバス形式で幅広い社会 テーマを扱い、当たり前だと思われる見方を問い直し、 物事を多角的に捉える力を養います。

グローバル・ディアスポラ	この科目では、人々の移動によって世界や社会がどのように形づくられてきたかを学びます。「ディアスポラ（故郷から国や地域を越えて離散した人々）」の歴史的な事例から、世界各地で異なる文化をもつ人々が共に生きる現代社会について考えます。
国際協力論	この科目では、国際協力が歴史や世界情勢の変化の中で、どのように形づくられてきたかを学びます。また、支援を受ける地域の立場から事例を考え、国際協力のさまざまな影響と、より良い関わり方について考えます。
科学技術のグローバルヒストリー	この科目では、科学と技術が国や地域を越えて発展してきた歴史を学びます。「鉄」「出版」「時間」などのテーマを通して、科学技術と社会との交わりや、地域の特色を活かした技術発展の可能性について考えます。
グローバル・イシュー入門	この科目では、グローバル社会の課題について日本語や英語で学びます。課題への理解を深め、国際的な環境で議論するための日英両言語の語彙と、学び考えるための基礎力を身につけます。
フィールドワーク入門	この科目では、アンケート、インタビューなどといった社会調査の基本を学べます。人々の意識やニーズを正しく捉えるためにすべきこと、すべきでないことが分かるようになります。
言語と社会（中国語）Ⅲ	この科目では、中国語の語彙や文法をさらに発展させ、中国語 4 技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に高めます。また、中国語表現の背景にある価値観や文化を理解するとともに、華人社会で活躍する技術者に必要な知識や表現を学びます。
言語と社会（中国語）Ⅳ	この科目では、中国語 4 技能（聞く、話す、読む、書く）をバランスよく向上させます。また、海外語学研修や旅行、仕事を想定した実践的なコミュニケーション力を養うとともに、中国語運用力と異文化理解をさらに深めます。
言語と社会（韓国語）Ⅲ	この科目では、韓国語の語彙や文法をさらに発展させ、韓国語 4 技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に高めます。また、韓国語表現の背景にある価値観や文化を理解するとともに、韓国社会で活躍する技術者に必要な知識や表現を学びます。

言語と社会（韓国語）Ⅳ	この科目では、韓国語 4 技能（聞く、話す、読む、書く）をバランスよく向上させます。また、海外語学研修や旅行、仕事を想定した実践的なコミュニケーション力を養うとともに、韓国語運用力と異文化理解をさらに深めます。
言語と社会（フランス語）Ⅲ	この科目では、フランス語の語彙や文法をさらに発展させ、フランス語 4 技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に高めます。また、フランス語表現の背景にある価値観や文化を理解するとともに、フランス社会で活躍する技術者に必要な知識や表現を学びます。
言語と社会（フランス語）Ⅳ	この科目では、フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能をバランスよく向上させます。海外語学研修や旅行、仕事を想定した実践的なコミュニケーション力を養うとともに、フランス語運用力と異文化理解をさらに深めます。
言語と社会（英語）Ⅰ	この科目は、グローバル人材副プログラムの英語科目として、これまでに培った英語の基礎知識を活かしながら、言語と社会の関係について学びます。多様なテーマの探究や英語でのディスカッションを通じて、異文化理解と国際的なコミュニケーション能力を高めます。
言語と社会（英語）Ⅱ	この科目では、「言語と社会 1」での学びを基盤に、言語と社会の関係について英語を用いてより深く探究します。言語と職業、アイデンティティ、グローバル化などのテーマを扱い、ディスカッションや発表を通じて、国際的な場面で必要な高度な英語コミュニケーション能力を養います。
国際協働演習	この科目では、留学生との協働学習を通じて多様な人々と協働する力や自ら学ぶ力を養います。また、グローバルな課題への理解を深め、専門知識や技術を活用した課題解決について考えます。
海外研修Ⅰ，Ⅱ	この科目では、海外の交流協定締結校等での専門講義の受講、現地企業等の見学、現地学生とのグループワーク等の教育プログラムを行い、異文化理解の促進、国際的な視野の獲得を目指します。

事業創造・スタートアップ論	この科目では、スタートアップの立ち上げに必要な知識やスキルを学びます。起業にチャレンジするためのマインドセットや事業創造に必要な考え方を身に付けるとともに、ビジネスプランの作成演習を通して、アイデアを具体的な事業へと発展させる力を養います。
組織マネジメント論	この科目では、経営組織論の基礎知識を学び、組織マネジメントの手法について理解を深めます。組織の設計や運営、人材の活用に関する理論を通じて、組織の維持や変革に必要なマネジメント能力を身に付けます。
技術マネジメント論	この科目では、技術の社会実装や商業化に必要な知識・スキルを学びます。市場ニーズを踏まえた技術マネジメントの基礎を理解するとともに、大学発技術を活用したスタートアップ創出など、事業化に向けた実践的な手法を学習します。
オペレーションズ・リサーチ	この科目では、組織運営における意思決定の考え方を学びます。PERT や経済性工学、線形計画法、待ち行列理論、AHP などの手法を用いて、客観的かつ合理的な判断方法を実践的に身に付けます。
経営管理論	この科目では、組織を管理するための基礎知識を学びます。経営戦略やマーケティング、人事制度、会社制度について理解を深め、管理者として求められる組織運営や意思決定に必要な知識を身に付けます。
マーケティング	この科目では、マーケティングの基本概念と実践的な活用方法を学びます。市場調査や消費者行動、ブランド戦略などを体系的に理解するとともに、事例研究やグループワークを通じて戦略立案や問題解決のスキルを身に付けます。
会計学	この科目では、会計情報の作成・活用方法や組織の意思決定への影響について学びます。財務情報の基本的な仕組みを理解するとともに、記録・集計・分類の基礎を通じて、会計の基本原則と役割について総合的に学習します。
国際ビジネス論	この科目では、国際経営に関する基礎知識を学びます。グローバル化が進む企業経営の現状を理解し、海外市場への展開や国際的な事業運営について、理論と実践の両面から学ぶことで、将来の経営に役立つ視点を身に付けます。

地域学	この科目では、本学が位置する北九州市や飯塚市を題材に、地域社会がどのように形成・発展してきたのかを歴史・産業・文化の視点から学びます。 ※交通費、施設への入館料が別途かかります。
情報社会と教育	この科目では、情報社会の特徴や課題について学びます。企業経営の変化や AI の普及などを踏まえ、それらがもたらす影響を理解するとともに、地域や教育現場における新たな活用方法や課題解決のあり方について考察します。
質的調査法	この科目では、インタビューと観察調査の企画・実査・分析までを実際に行いながら学びます。自分とは異なる他者の知恵を、直接の見聞を通じ学ぶ経験を得られます。 ※交通費、施設への入館料が別途かかります。
量的調査法	この科目では、感情や考え方など、目に見えない「心」を測る方法を学びます。質問紙調査やデータ分析を通して、感覚や思い込みだけに頼らず、人の心をデータから理解する力を身につけます。
地域創生プロジェクトⅠ	この科目では、筑豊地域の課題を調べ、話し合います。学んだ知識や調査方法を活かし、技術による解決策を考え、多文化協働を通して地域社会に主体的に関わる力を身につけます。 ※交通費、施設への入館料が別途かかります。
地域創生プロジェクトⅡ	この科目では、「地域創生プロジェクトⅠ」で提案した解決策を地域に還元するため、レポートやプロトタイプを作成します。さらに、技術が地域社会や世界に与える影響を考え、地域創生に取り組む姿勢を身につけます。 ※交通費、施設への入館料が別途かかります。
DX と社会	この科目では、DX が社会の中でどのような現象として発展してきたのかを学びます。DX に関する各種枠組みや世界的動向を踏まえ、社会貢献に必要な DX の形について文理融合の視点から考察します。
社会データ分析	この科目では、公的統計データを題材に、社会調査データの活用・分析方法を学びます。演習を通じてデータの見方や解釈、調査設計の基礎を身に付けるとともに、データ管理や倫理的配慮についても理解を深めます。

社会データ解析演習Ⅰ	この科目では、社会調査で収集したデータを分析・活用し、社会課題の発見と解決に取り組みます。R や Excel、BI ツールを用いた実践的な演習や協働活動を通じて、データ活用力と生成 AI 活用スキルを身に付けます。
社会データ解析演習Ⅱ	この科目では、社会調査データの分析・解析技術を応用し、社会課題の発見と解決に取り組みます。社会データ解析演習Ⅰの発展科目として、より高度な分析力を養うとともに、成果を社会へ発信する協働活動も実践します。

7. Q&A（よくある質問）

Q. 全学副プログラム修了には何単位必要ですか？

A. 各全学副プログラムの修了には、10 単位の修得が必要です。プログラムごとに履修する科目が異なりますので、登録・履修前に各プログラムの科目表を確認してください。

Q. 修了すると何がもらえますか？

A. 修了者には、オープンバッジ（シルバー）が授与されます。オープンバッジはデジタル証明書で、学修成果を将来の進学やキャリア形成の場面で示すために活用できます。

Q. 全学副プログラムに登録しないと修了したことにはなりませんか？また、バッジも授与されませんか？

A. 全学副プログラムに登録せずに全学副プログラムの科目を受講して所定の単位を修得するだけでは、全学副プログラム修了したことにはならず、バッジも授与されませんので、全学副プログラムへの登録が必要です。時期によっては登録できない（間に合わない）こともあるため、未登録の場合は早めに全学副プログラム・コーディネート担当へご相談ください。

Q. 全学副プログラムの科目の履修登録は通常の授業と別に行いますか？

A. 各学期の履修登録期間内に他の科目と同様に履修登録します。定員を超過した科目は、全学副プログラムに登録している学生を優先し、さらに上位学年の学生を優先のうえで抽選を行います。詳細な日時は LiveCampusU で通知します。

Q. 全学副プログラムの登録定員はありますか？

A. プログラムによって異なります。プログラムの定員について、本手引きの各プログラム紹介ページに掲載していますのでご確認ください。

Q. 全学副プログラムの登録希望者がプログラムの定員を超えた場合はどうなりますか？

A. 定員のあるプログラムでは、定員を超えた場合には登録者の選抜を行うことがあります。

Q. 全学副プログラム登録者は履修上の優先がありますか？

A. 全学副プログラム登録者が優先して受講できる科目があります。また、全学副プログラム登録者のみ受講できる科目もあります。詳しくは、各プログラムの科目表を確認してください。

Q. どのプログラムを選べばよいですか？

A. ご自身が目指す将来像や興味・関心に応じて選択することをおすすめします。海外・多文化協働に関心がある場合は『グローバル人材』、技術を事業やサービスに育てたい場合は『マネジメント・アントレプレナーシップ人材』、地域課題に取り組みたい場合は『社会実装・地域創生人材』、データを使って社会課題を考えたい場合は『データサイエンスと社会』が合っています。

Q. バッジはいつ授与されますか？

A. 4 年次にバッジ授与を予定しています。具体的な時期は、今後の案内や LiveCampusU で確認してください。

Q. 最初に提出した学びの計画書（履修計画書）どおり、全学副プログラムの科目を履修する必要がありますか？

A. 最初に提出した学びの計画書（履修計画書）どおりに履修する必要はありませんが、各プログラムの修了要件を確認して計画的な履修を行ってください。また科目によっては定員、優先科目・限定科目の扱いがあるので、変更前に必ず教養教育院 全学副プログラム・コーディネート担当に相談してください。

Q. 全学副プログラムの登録は 2 年生以降でも可能でしょうか？

A. 2 年生の全学副プログラム科目の履修状況によりますが、3 年生からでも全学副プログラムに登録することが可能な場合があります。その場合は 2 年生後期の説明会またはガイダンスの際に必ず教養教育院 全学副プログラム・コーディネート担当に相談してください。

Q. 全学副プログラムの登録の可否は、どのように通知されますか？

A. 「学びの計画書」を提出完了後、1 年次の 3 月末までに、LiveCampusU にて登録の可否を連絡します。必ず確認するようにしてください。

Q. 全学副プログラムの途中で休学・留学する場合でも、全学副プログラムの科目を履修できますか？

A. 休学中は全学副プログラムの科目を含め大学の科目が履修できません。休学を伴う留学も同様です。復学後は、履修可能です。休学を伴わない留学の場合、全学副プログラムの科目が履修できるかどうかは授業によりますので、教養教育院 全学副プログラム・コーディネート担当に相談してください。

Q. 全学副プログラム科目の履修に、別途費用はかかりますか？

A. 学外での活動などが含まれるプログラムにおいては、交通費等が自己負担になります。詳細は教養教育院 全学副プログラム・コーディネート担当にお問い合わせください。

Q. 全学副プログラムは、2 つ以上登録できますか？

A. 可能ですが、各プログラムの修了要件をそれぞれ充足する必要があります。

8. お問い合わせ先

全学副プログラムに関する相談・お問い合わせは、下記までご連絡ください。

お問合せ先

担当	九州工業大学 教養教育院 全学副プログラム・コーディネート担当
お問合せフォーム 	https://forms.cloud.microsoft/r/a4cMp3jcxE

オフィスアワー

全学副プログラムに関する相談窓口として、月に1～2回昼休みにオフィスアワーを設けます。
気になることなど、先生と直接お話できますのでお気軽にご相談ください。

9. QRコード・リンク

最新情報は、全学副プログラムのホームページおよび Moodle で確認してください。

ホームページ 	https://www.kyutech.ac.jp/campuslife/subpro.html
Moodle 	https://horyu.el.kyutech.ac.jp/course/view.php?id=1084